



やさい食堂 堀江座 (神戸市)

～vegan OK・人が集まる渦の目～

スペース・店・講座・印刷物等々人のエネルギーが集まる「場」の紹介コーナー

やさい食堂 堀江座
兵庫県神戸市中央区元町通 6-3-3
080-7041-5711
<https://spicedays.exblog.jp/>
12時~21時 日曜定休



★20年ほど前から神戸で名前や場所を変えながらお店をやっていたという堀江さん。堀江座という名前になったのは6年ほど前から。311のあとボランティアで東北に行き、向こうの人の話を聞いてるとどんどん意識が変わったという。

「震災で思ったのは、やっぱりコミュニティは強いな—ということ。ああいうことが起こったら、なにが必要かなと思うと、やっぱり信頼関係かな。日常的に声を掛け合っていた地域は、どこに誰が住んでるか、昼間いるのかいないのか、ぜんぶ把握してるんです。で、近くに住んでるのも大事なんですけど、離れてたとしても親戚みたいな関係であることが、すごい助かるんやな。だからふだんから人と人が密になるような場所があったらいいんじゃないかな。この店がそうなればおもしろいかな。」

★そこで6年前に心機一転、廃業届けを出して、店の名前もメニューも包丁もまな板も変えた。「堀江座」という名前の「座」というのは人が集まって話をしたり物事が生まれる場にしたいという思いから。それと同時にメニューも変えた。以前も健康志向だったが表面的だったので、一步踏み込んでこの材料は誰がどんな思いで作ったのか、安心して食べれるものなのか。そういうものを手に入れて調理できるのはわくわくしてくるという。



以前から名前は知っていたが、前号の凜ちゃんパレスチナ報告会、そしてその後には岡山の家族バンド「かや小屋バンド」のライブで行く機会があり、店主の堀江さんと話をしているうちに縁を感じて新聞を置いてもらうことになったこのお店。紹介するために話を伺っていたらたくさんの共通する人・モノ・コトがある上に共感させられる話が満載。本紙発祥の店、吉祥寺のぐわらん洞にもどこか雰囲気似ている店の雰囲気は、店主が言うようなわくわく感があふれている。

「食材はかなり個別に仕入れてるんです。そうすると仕入れの手間はかかるけどめっちゃ面白い。手間を楽しめたら、手間は楽しみに変わっちゃう。今だったらインターネットでも注文できるけど、わざわざ電話してどうですか—って連絡してみるんです。」

★堀江座ではゴミを減らし、水を汚したくないので、洗剤を使うのをやめたという。

「油料理でも油の使い方を考えたらいいんです。油に入れる温度。あとお肉の脂と植物性の油でもこびりつき方が違ったり、とれ方が違ったり。もう今でははっきり言えるんですけど、油汚れなんて言い方はしないで、旨みと言います。(笑) 調理したあとフライパンにつける油はゴムべらできれいに取ってご飯に塗ったら、もうめっちゃ美味しくんです。そんなしてたら流すことないです。それで温度が上がりすぎると、どうしても油が変化してしまうから、できるだけ200度まで。180度くらいですかね。それまででぜんぶ調理終わらすようにして。ふだんは160度にかんくらいで調理してます。そうするとこびりつかへんし、洗剤いらんです。」

「そういうふうには大幅に変えていったんです。食材を仕入れたりでどうせお金は使うんですけど、ぜんぶちゃんと考えて説明のつくようにして使うと、いちいちわくわくしちゃうんです。だって納得してるから。そういう日常にどんどん変わりましたね。そうするとこころが気に入って来てくれる人のテンションも変わります。世の中の流れるにも増えるんじゃないですかね。みんな面白そうな方に行くじゃないですか。だからまず自分がわくわくするようなことをやることだし。料理してる人で、せっかく作ってるのに自分が食べてないというのがよくあるんですよ。でもやっぱり自分が一番のファンにならなアカン—と思って。だから毎日食べたいものを作りたい—と思います。」

★堀江座では5種類のカレーを出しており取材に行った時は炒め納豆カレーを食べたが肉が入っているメニューもある。「やさい食堂」と言ってるわけは？

「神戸は農家さんがすごく多くて1/3は農地なんです。淡路島も近いし。それが一番手



入れやすい食材で、地産地消だし手軽ですって食べれるものなんです。それをめっちゃ使いたいなと思って、それでやさい食堂なんです。でもお肉は別に悪いと思ってないんで、それもあの人から買いたいなとか思ってるんです。」

★1階は飲食できるお店スペースだが、階段をあがった2階ではどんなことをやってるのか聞いてみた。

「音楽のイベントが多いのと、あとは映画の上映会、落語会とか、こないだ初めて講談会。あとは勉強会も多いかな、種の問題とか。映画見たりして勉強するという。みんなが漠然としかわかってないようなことを、専門的な人が来て教えてくれるんです。いろんなきっかけになったらいいなと思ってるんです。まずは階段を一歩のぼるところの場所になってほしくて。ミーティングもあるし。来年は神戸でアースキャラバンのイベントをやろうということで、その作戦会議のミーティングが始まっています。でもみんな、なんかやる前にご飯食べるんですよ。そのご飯がパワーとかエネルギーになるもんやったら、めっちゃよくないですか。体が軽くなったり頭の回転が速くなったり、そういうご飯を食べながらミーティングしてもらったりイベントしてもらったら、ぜったいおもしろいと思うんです。」

★店内は客同士が肘がすり合うほど、会話もまわりに聞こえてしまうほどの狭さだが、だからこそ初めて来る客でもすぐなじめるような家庭的な雰囲気があるそうだ。

↑店主の堀江さん。

西元町の裏通りにある堀江座を外から見たところ。1階がお店、2階がイベントスペースとなっている。